

1月27日(月)

誰のところに行きましょう

聖書朗読 ヨハネ 6:60~71

わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。 ヨハネ 14:6

私たちは最近22年住み慣れたオクラホマ州エドモントンからテキサス州オースティンに引っ越しました。そこで最も大変だったうちのひとつに医者が必要とする時、誰のもとへ行けばよいのかと言う事でした。

引っ越し先では、新しい医者、病院、薬局等を見つけてその一覧表を更新する必要があります。この他にも住所変更、電気、ガス、水道等の連絡、買い物の店、銀行や教会やレストランの場所などを新しく探す必要があります。そのような経験をした事がありますか。面倒ですね。

イエス様はいのちのパンについて語られました。ご自身の事を天から下って来たパンと仰せになり、イエス様のみが霊的な糧の源であると続けられました。これを聞いた周りにいた群衆はひどい言葉だと思いきやその場から立ち去り始めたのです。

そしてイエス様は十二弟子たちに、まさかあなたたちも離れたいと思うのではないかと、尋ねられました。するとペテロが答えました。『主よ、私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのこぼれを持っておられます。』(ヨハネ6:68)

自分達が定めた道がベストであるとし、私たちに救う言葉を持っていると主張する人が多くいます。しかしイエス様は、ご自身のみが天国へ通じる道であると言っておられます。それでは私たちは誰のところへ行くのでしょうか。イエス様だけが永遠の命を持っておられます。

讃美歌 279

祈り 天のお父様。イエス様と共にいつも歩めることが出来ますように導いてください。

イエス様の御名により。アーメン。

グローバー・シップ
テキサス州 オースティン

今日のカ

2014年1月27日~2月2日

翻訳 井上輝彦

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月28日(火)

不屈の努力

聖書朗読 ヨハネ 8:31~38

試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。

ヤコブ 1:12

ウインストン・チャーチルは、かつて大学の卒業式で立ち上がり訓示を述べました。「決して、決して、決して諦めるな」と。臆病者には褒美はありません。

不屈の努力、辛抱という言葉は聖書ではあまり出てきませんが、この思想が全体にいきわたっています。『死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。』(黙示録2:10)

不屈の努力、辛抱は弟子であること的前提条件でr][

。そこでイエス様は信じたユダヤ人たちに言われました。『もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。』(ヨハネ8:31)。イエス様の弟子になるということは、信仰を持ち続けるということや多くの試練や誘惑に耐えることやイエス様の御言葉を絶えず学ぶことが前提条件です。

もし私たちがつまずきそうになったら、祈りましょう。このことにより自分自身の力に頼るより神の力にこそ頼りましょう。わがままを捨てて他人の為に良いことをするようにしましょう。これによりあなたがたは不屈の人になれるでしょう。信仰を共にする人と一緒にいなさい。数人の信仰者へ近づくようにしなさい。信仰者の愛はあなたがつまずくことから遠ざけるでしょう。決してあきらめないで下さい。

讃美歌 280

祈り 聖なるお父様。あなたの素晴らしい救いを褒め称え感謝します。あなたの愛に満ちた慈悲により私たちの心を満たしてください。そして多くの人イエス様を受け入れる事が出来ますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ハロルド・L・シモンズ
テネシー州 スミルナ

1月29日(水)

私はもう出て行く

聖書朗読 ヨハネ 16:1~11

善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て刈り取るのです。

ガラテヤ 6:9

「あきらめた。やめた。私はもう出て行く。できる事は全て行った。これ以上は無理。二度と要求するな。これが限界だ。もう逃げ出すしかない」。あなたは決してこれらのことを言ったことは無いと思います。しかし私たちは聞いているのです。

あなたは、無論祈るでしょう。「主よ、お助けください。どうして良いか分かりません」。あるいは「試練に立ち向かい打ち勝つように力を与えてください」。あなたが祈るときは、力、勇気、知恵、知識、理解力を求めます。そして私もそうですが、主がそれを授けてくださることを知っています。神様があなた方を気遣い、最後まで一緒にいて下さる約束を果たされることに感謝し、祝福されていることを覚えます。ガラテヤ6:9のように『私は二度と落とし穴には入りません』と、神様と自分自身に約束をしました。しかし・・・

私がつまづく時には神様から学ぶ機会になります。落胆は神様や私自身の理解を深める新しい機会となると思います。すぐにはかなえられない祈りは一見不幸に見えますが最後には良いものとなるでしょう。確かなものは神様の変わらない忠誠心と愛です。

讃美歌 371

祈り 神様。現在の私のありのままに感謝します。あなたを信じ、ついて行けますようにお導きください。

イエス様の御名により。アーメン。

ウイリアム・ビル・マクノド
いのちの船 カンボジア

1月30日(木)

イエス様——私の闇に対する答え

聖書朗読 ヨハネ 9:1~10

あの人が目を開けてくれたことで、あの人を何だと思っているのか。

ヨハネ 9:17

この人は、生まれつきの盲人であり、物乞いで、イエス様を見たことはありませんでした。その彼が、視力が回復した理由を聞かれました。そこで彼は答えました。私の視力を回復させたその人が、シロアムという池に行き目を洗いなさいといわれたので、その通りにしたら生まれて初めて見えるようになりました。そういうわけで私はその人を見ていません。・・・何と素晴らしい信仰でしょう。その人はイエス様の命令に従い、目が見えるようになるという恵みを得たのです。それからこの人はほかの者から誰がこの奇跡を行ったのかとしつこく聞かれましたが、彼はただあの方は預言者ですと答えました。

生まれながら目が見えない人が神様からの送りもので突然見えるようになるとはユダヤ人の誰もが理解することができませんでした。彼の両親さえ息子であることは認めましたが、突然の視力回復がイエス様の御業であるとユダヤ人の前で述べることを恐れしました。その息子は、正直に真実を述べ、また質問をした人は、目を開けてくれた人のことを信じるかと、尋ねました。その人が信じるというと会堂から追い出されました。

これを聞いたイエス様は、男に私を信じるかと質問されました。答えは明確です。男は自分の目を回復させた人が誰かを知り、その人を信じたかったのです。私たちは盲目のために正しい事が出来ない事がよくあります。私たちは周りの人々に従いますか。もう一度この章の5節以降を読んで、そして誰が闇から救ってくださったのかを考えましょう。

讃美歌 326

祈り 主よ。この世にいのちの光を送ってくださり感謝します。どうか主よ、私たちの目を開けてこの世の闇を取り除くことに力を貸してください。

イエス様の御名により。アーメン。

ジョージ・V・モルテンセン
ワシントン州 カークランド

1月31日(金)

忙しすぎる

聖書朗読 ヨハネ 12:37~4

彼らは、神からの榮譽よりも、人の榮譽を愛したからである。

ヨハネ 12:43

私のカレンダーは、予定で埋め尽くされています。約束や仕事は注意をする必要があるのでマーキングをします。そしてほとんどの日がスケジュールに追われて神様に目を向ける時間が取れません。

多分、あなた方も私と同じでしょう。そしてパリサイ人がヨハネ12章でイエス様の存在を認めながら、信仰は認めようとしなないのは何故かと思惑がっているかもしれません。パリサイ人はイエス様と直接交わり、奇跡も経験しました。それにもかかわらず彼らは神様から褒めていただくことよりも人間の名誉を重んじたのです。

自分の胸に手を当てて正直になって、神様からの賞賛よりも人間の賞賛の方を選択した日々があるかを自問してみましょう。意識的にする選択ではありません。日常の小さな選択の積み重ねです。どこで自分の時間と労力を割くのかの選択です。選択の結果それをカレンダーに書き込みます。どのようにお金を使うかの選択もあります。

これらの選択は、人間の賞賛を得るためか、それとも神様からの賞賛を得るためなのかです。個々のほとんどの選択は小さいものですが、しかしそれが人生です。ちょっと時間をとって自分がどのように時間とお金を使うべきかを考えましょう。今日から神様からの賞賛を得ることを選択しましょう。

讃美歌 270

祈り 主よ。私がこの世の仕事の忙しさに忙殺されてあなたに目を向けていない時はそのことを認識するように助けてください。他人の賞賛を重んじてあなたへの信仰が薄まる事がないように導いてください。どうか永遠のものとのこの世の一時的なものとの見分けがつかますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ベス・ロビンソン
テキサス州 ラボック

2月1日(土)

イエス様が汚れた足を洗うとき

聖書朗読 ヨハネ 13:4~15

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 ヨハネ 13:15

イエス様は使徒たちと食事をしている時、最後の教えとして天国で偉大になるにはどうすれば良いかの模範を示されました。イエス様はかがみこみ、弟子たちの汚れた足を洗うという事をされたのです。

2006年の夏、私と夫が世界で3番目に貧しい国へ伝道旅行をしたときの事です。毎日は体を洗う事が出来ず、旅の終わりには体が汚れてもう帰りたくなりました。そのとき村の人たちは私たちが決して忘れる事のできない事をしてくれました。私たちが座ると村人たちは私たちの足を洗い始めました。

それは経験した事がないような最も謙虚な気持ちにさせてくれた瞬間でした。

その時が、私たちがしもべになることを、教えられた瞬間でした。このかけがえない人々が私たちの汚れた足を洗っているとき、イエス様が弟子達の足を洗う物語が現実となったのです。

私たちは自分が偉大であると思い、人の足など洗えないと考える事がないように、また主のために汚れた仕事も出来ますように。そして私たちはイエス様が模範を示されたように、最も低い人となり、最も偉大な主イエス様をたたえる事が特権と考える事が出来ますように。

聖歌 551

祈り 主よ。あなたが私達に示される機会を私達がきっちり見られますようにお助けください。他人に喜びを持って仕えることが出来ますようにまた私達が行うすべてにあなたへの栄光となりますように。

イエス様の御名により。アーメン。

クリスティー・ジョンソン
アラバマ州 ハンツビル

2月2日(日)

家族への気遣い

聖書朗読 ヨハネ 19:16~27

もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。 Iテモテ 5:8

人間の姿をした神様が自分の家族にどのように接したかを見ると、それが如何に啓蒙的であるかが分かります。罪によってもたらされたものから、人類を解放するために悪魔と戦ってその結果十字架に架けられるその瞬間でさえ、母親を気遣い、自分にはもう世話は出来ないで、使徒のヨハネに彼女の面倒をみるように頼みました。聖書によるとヨハネは直ちにイエス様の母親を自分の家に連れて行きました。この箇所を読んだ読者のうちでエペソの聖地にあるマリアが死ぬまで住んだとされているヨハネの家に訪れた人もいるかもしれません。

聖書によるとイエス様は12歳の時点では両親に仕えていました(ルカ2:51)。イエス様の最初の宣教では、結婚披露宴であり気乗りはしなかったものの、母の言うことを聞き入れています。このことはイエス様が結婚式のホスト役の母親に恥をかかせないために水をワインに変えたのです。

イエス様の兄弟でさえ復活の前にはイエス様を信じる事が出来なかったと、新約聖書のヤコブやユダの手紙の中に書かれています。神様はその大いなる愛で私達を天国の永遠の家族の一員として招いて下さっています。

讃美歌 488

祈り 主よ。私達は御国でのあなたの家に永遠に一緒に住むよう導いてくださっている事に感謝します。

カール・ミッチェル
アーカンソー州 サーシー